

# 犬山学



第11回・第12回犬山学サロン  
犬山市民総合大学 敬道館 グローカル学部  
犬山北小学校150周年に合わせて  
多文化交流フェス×フロイデまつり



尋常小学稲置小学校の扁額(写真提供:犬山市立犬山北小学校)

犬山北小学校の前身である尋常小学稲置小学校の門にかけられていた扁額は、成瀬家第9代当主成瀬正肥氏が揮毫。現在も犬山北小学校体育館に掲げられ、児童たちを見守っている。

## 第11回犬山学サロン 「300年前の仕事で300年先の未来へ」

開催日時:2022年10月3日(月)16:40~18:00

場所:名古屋経済大学 14A講義室

私が左官の道に入って50年余り、文化財建造物に長年携わり歴史を変えてはならないその思いで今日に至る。この日本の伝統建築技術を価値あるものとして後世に残していかなければならないという使命感を持って文化財建造物と日々向き合っている。

私が左官の世界に飛び込んだきっかけは父の勧めと作ることが好きであったからである。中学校を卒業して単身15歳で北名古屋市にある左官屋に就職した。そこで文化財建造物修復に携わり、のちに独立した。独立後も文化財の現場に携わり、特に昭和54年の旧余市運上家(北海道)での現場を機に認められるようになり、全国各地からの修復依頼の問い合わせが多くなった。



犬山城の修復に携わる中嶋氏(左)  
(1963(昭和38)年~1964(昭和39)年に撮影)

今でこそ依頼が絶えない状態ではあるがその裏ではたくさんの失敗してきた。だが、失敗をすることで学ぶことができ、尚且つその知識を次の世代に教えることができると知った。ただ、当時は失敗したら仕事の依頼がなくなるのではと恐れも抱いており日々苦悩していた。しかし、今では失敗自体が誇りに思えるので、数々の失敗

があるからこそ今の私があると痛感する。

左官仕事の特徴として地域や施工建造物によって工法や材料の性質が異なる。特に土は産地や採取された時期などによって色や成分が異なるため、それぞれの土の性質を見極めて扱う技術が必要となる。また、季節や天気、気温や湿度といった環境によって材料の状態が変化する。それに適応する必要があるため、高度な技術が求められる。

中島左官として数々の現場を施工すると並行して、全国文化財壁技術保存会の活動も行った。当会の設立の経緯としては、当時の国宝犬山城天守修理工事主任の安藤守人さんや当時文化庁で現在岡山大学教授の江面先生、元姫路市城郭研究室の上田先生、元兵庫県教育員会の村上先生といったたくさんの方々から助言をいただき、そののち後藤佐雅夫先生(全国国宝重要文化財所有者連盟)に相談し、左官の選定保存技術者である佐藤治男さんや京都の田代さんと話し合った上で会を

設立した。

当会の活動として、若手職人を育成する技術の継承と左官の技術を一般の方々にも認知していただくための啓蒙活動の2つを主に行っている。技術の継承では、毎年当会が行っている研修会にて伝統工法の継承だけでなく、文化財に対する知識を習得するための講義も行っている。啓蒙活動の方では、主に姫路市と協力して行っている「姫路漆喰塗り体験会」と文化庁主催の「日本の技フェア」があり、後者は毎年開催場所を変えて全国各地で行っている。

令和2年12月には、左官を含めた17件の伝統技術を持つ14団体がユネスコ無形文化遺産に登録され、多くの方に認知されつつあり嬉しくもあるが、この左官の技術を継承していく上で課題もある。現在の左官職人の数は約3万人と全盛期の10分の1程度に減少し尚且つ高齢化が進んでいる。また、職人だけでなく左官に必要な建材屋、材料屋、道具屋なども高齢化と後継者不足に悩まされているのが現状である。それだけでなく材料の減少、高騰により入手困難になっているなど多くの課題があり深刻な状況である。

日本の文化財建造物は当時の技術の結晶であり先人たちの見えない努力と苦勞がつまっている貴重な遺産である。文化財建造物と共に日本の伝統建築技術を絶やさず伝承することに尽力する所存である。



### 講師プロフィール

全国文化財壁技術保存会副会長

中嶋 正雄

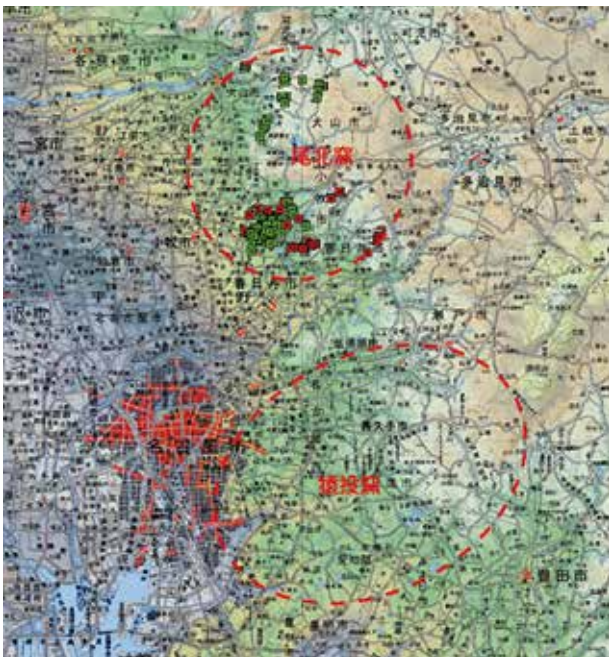
昭和22年岐阜県生まれ。

2020年 ユネスコ無形文化遺産「伝統建築工匠の技・木造建造物を受け継ぐための伝統技術」の左官(日本壁)技術保存団体として、全国文化財壁技術保存会が代表一覧表に記載された。

## 第12回犬山学サロン 古代尾張の窯業地 尾北古窯跡群

開催日時:2023年1月20日(金)16:40~18:00 場所:名古屋経済大学 14A講義室

古代尾張で猿投山西南麓古窯跡群(猿投窯)と並んで二大窯業地の一つである尾北古窯跡群(尾北窯)は、小牧市東部の篠岡丘陵に中心があるが、春日井市や犬山市の丘陵地にも窯跡が分布する。尾北窯では、6世紀の須恵器生産に始まり、9世紀以降は灰釉陶器や緑釉陶器を生産し、11世紀後半からは釉薬を施さない山茶碗生産へと転換して、12世紀前半で生産を終えている。

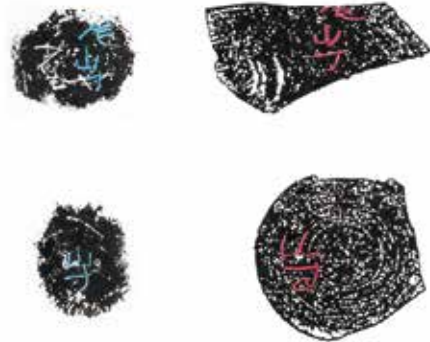


古代尾張の二大窯業地 猿投窯と尾北窯

尾北窯の窯業生産は、大別して、須恵器生産の時代と灰釉陶器生産の時代に区分できる。最初に須恵器生産を開始するのは春日井市下原古窯跡群で6世紀前葉に須恵器と埴輪を焼いているが、短期間で廃絶される。次に生産を開始するのが篠岡古窯跡群で、7世紀後半から12世紀前半まで継続して生産を続ける。

篠岡では7世紀後半に須恵器と瓦を併焼し始めるが、8世紀初頭に一気に窯数を増やし、春日井市の丘陵に分布を拡大する。特に高蔵寺支群や神屋支群ではこの時期にだけ窯が築かれる。しかし、8世紀の半ばには窯数を減らし分布も縮小する。須恵器生産では、陶硯の豊富さや刻字資料が注目される。中でも、篠岡78号窯から出土した刻字須恵器は、奈良県の藤原京関連施設の石神遺跡出土刻字須恵器と酷似し、尾北窯から藤原京へ製品が運ばれたことを示している。須恵器では、猿投産と尾北産を区別できないほど似ていることから、猿投窯の工人

の一部が尾北へ移動して須恵器生産を開始したとみられる。



刻字須恵器拓本 左:篠岡78号 右:石神遺跡

9世紀前半に猿投窯で、中国製の青白磁の代用品を目指し須恵器生産の伝統と緑釉陶器の施釉技術を融合させて灰釉陶器が発明されると、さほど時期をおかずに尾北窯でも灰釉陶器と緑釉陶器の生産を始める。灰釉陶器の場合、須恵器と異なり、猿投産と尾北産は、胎土や灰釉の色調が異なり、識別可能である。また、特に初期の灰釉陶器では、ろくろ技術や文様の精緻さなどで明らかな差異がある。猿投窯から技術導入して在地の須恵器工人が灰釉陶器生産を開始したものとみられる。猿投窯が京都などの中央への供給を指向したのに対して、尾北窯は中国製品だけでなく猿投産の灰釉陶器も入手困難であった東国を主な供給先としたとみられる。器種のバラエティや灰釉の施釉方法、焼成方法などを見ると、灰釉陶器は、一番早い段階が丁寧で手間をかけているものが、徐々に大量生産を指向して、粗雑化していく傾向をみることができる。最終的には釉薬を施さない在地向けの日常雑器である山茶碗へと転換し生産を終了した。

犬山市域での尾北窯の状況は、須恵器の窯跡は存在せず、灰釉陶器生産は尾北窯の中でも一段階遅れた9世紀後半から開始し、11世紀前半までの窯跡が知られている。



### 講師プロフィール

小牧市文化財保護審議会委員  
中嶋 隆

昭和28年愛知県岡崎市生まれ。  
38年間小牧市教育委員会で埋蔵文化財など文化保護行政に携わる。大山原寺跡、小牧山城など多数の発掘調査を担当。

## 犬山市民総合大学 敬道館 グローカル学部

開催日時:2022年10月8日(土)10:00~11:30 場所:名古屋経済大学 14A講義室

これまで本学が担当してきた『名経大オープンカレッジ』の学部名を今年度より、本学の教育の軸『グローカル』(広い視野を持ち世界と共存しながら、地域に根差した視点を持つ)を学部名とし、10月8日に犬山学研究センターの伊藤博司客員教授による「名鉄犬山線開通110年と名鉄の観光開発-現在・過去・未来-」を実施し、45名の皆様にご参加いただきました。

長年、名古屋鉄道株式会社に勤め、株式会社名鉄インプレスの元社長であった講師から、犬山市の観光の歴史を、鉄道や観光施設の発展と併せてお話しました。当時の写真や新聞記事、杉本健吉氏の日本ライン下りが描かれた鳥観図(レプリカ)等の資料をご覧いただき、「犬山と名鉄の係りが良く分かった」、「子供の頃の懐かしい話が聞けた」などのお声をいただきました。

2023年度も犬山学に関する講義を含めて、犬山市民総合大学で「グローカル学部」を開講します。犬山市または、犬山学研究センターのホームページなどをご確認ください。

名古屋経済大学犬山学研究センターホームページ  
<https://www.nagoya-ku.ac.jp/inuyamagaku-c/>

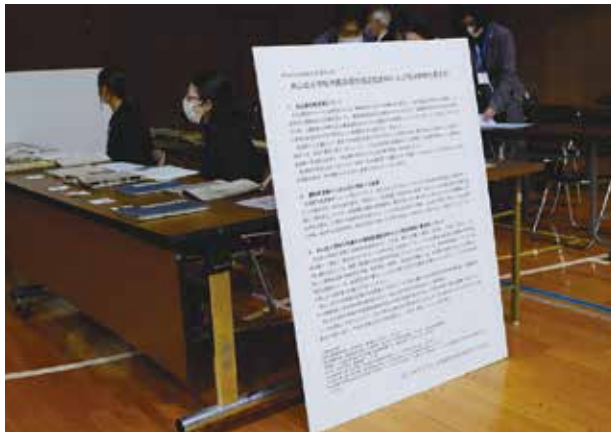


杉本健吉画:名古屋鉄道が観光宣伝用に依頼(1937(昭和12)年)

## 犬山北小学校150周年に合わせて

開催日:2022年11月26日(土)

2022年に創立150周年を迎えられた犬山市立犬山北小学校の記念式典にて、犬山学研究センター中村センター長が藩校敬道館から犬山北小学校に至る歴史をまとめたパネルと、敬道館や明治期に使用されていた教科書など小学校で保管されている史料の目録を、蔵書等と一緒に展示していただきました。



## 多文化交流フェス×フロイデまつり

開催日:2022年12月18日(日)

犬山市民交流センターフロイデにて行われた「多文化交流フェス×フロイデまつり」にて、特定非営利活動法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワークと共同で発行した「名鉄小牧線 歴てつMAP」を解説付きで展示しました。

